

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の方々と支え合い、個々が生き生きと生活出来る笑顔の絶えないホーム。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関及び事務所に掲示し、毎朝の申し送り、カンファレンス時に唱和を行い、職員全員が理念を念頭に置きながら、入居者へケアが出来るよう心がけている。	○	職員間の体制が変わったことにより、新たに体制を作り上げているところである。そのため、話し合いを頻回に行い、職員間での意識・ケア統一を行えるよう努めていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関に掲示をおこない、面会時に見ていただけるよう、また、利用契約時等にも理念について理解をいただけるよう説明をしている。	○	
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常の散歩や園芸時等、入居者と共に挨拶や話をし、気軽に立ち寄って頂けるよう声掛けを行っている。また、そのために玄関を開放し、閉鎖的に見えぬように努めている。	○	隣接する田畑の方などに声をかけたり、施設に閉塞感のないよう、気軽に入って頂くよう心がけを行っている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の行事や文化祭、近隣施設の行事に積極的に参加し、交流を深めていけるよう努めている。	○	地元の中学校、小学校の職場体験を受け入れる体制作りを整えていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議や面会時に、地域住民や役場関係者、家族からの意見や相談を聞き、そこで得た情報を入居者の生活に取り組んでいけるよう努めている。また、地域の食材や食品店で購入するようにしている。	○	地域の高齢者が気軽に立ち寄れるように、具体的な計画、環境作りを検討していきたい。また、地区の道路愛護活動など、地域の方との交流の場を増やしていきたい。
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回外部評価に立ち会っていない職員には、カンファレンス及び小会議時に十分に説明を行っている。また、自己評価については全職員が実施し、管理者がそれをまとめ、カンファレンス時に再度確認を行い認識している。	○	今回の評価において、改善点や指摘があった箇所については、再度、全職員で話し合いをし、改善していくよう努めたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内の状況報告や地域交流の報告を行うとともに、行政や地区の代表者から意見や情報を頂き、それらを職員間で話しあった上で、普段の生活の中に取り入れるよう努めている。また、運営推進会議の報告書は、ホーム内の廊下、玄関に掲示・ファイルし、面会に来られた家族や来客者にも見ていただけるようにしている。	○	運営推進会議で話し合いたい内容について、事前にスタッフに意見を聞き、会議議題の中に取り組んでいる。また、地域の福祉に対するニーズを受け入れるよう検討していく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	提出書類や、運営推進会議、行事等の案内状を届ける際に、関係者との意見交換を行っている。	○	左記以外でも、意見交換を行える機会を増やしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、対象となる入居者はいない。	○	管理者及び職員は、積極的に勉強会や研修に参加し、知識を得ることが必要と考える。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス時や小会議等の中で話し合いを行い、職員間での意識統一を行うよう努めている。	○	虐待についての話し合いだけではなく、日ごろのケアの中で、職員が気付かぬうちに虐待に値するような言動や行動をとっていないか、再度確認を行い、虐待防止を努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に十分な説明を行っているが、入居後に不安や問題が生じた場合は、利用者や家族からだけでなく、介護者側からもそれを尋ね、問題解決及び、理解・納得をしていたできるよう努めている。	○	利用者及び家族から、不安や疑問を言いやすい環境作りに力を入れていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、外部者からの意見・要望を取り入れられるようにしている。また、月に1度訪問していただいている介護相談員に意見等を聞き、職員間での話し合いを行った上で施設運営に反映させている。	○	意見箱の積極的な利用を促す具体的な対策が必要。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時及び電話連絡時等、入居者の日ごろの様子や健康状態を常に報告し、少しでも健康状態等に変化が見られた場合などには、速やかに連絡し、報告を行っている。また、金銭の管理や職員異動等についても同様に行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置するほか、面会時などに職員側から積極的に尋ねるよう努めている。また、地域の方から聞こえてきた小さな意見でも、申し送りノートやケース記録に残し、カンファレンスや小会議等で話し合いを行い、施設運営に反映させている。	○	利用者及び家族から、不安や疑問を言いやすい環境作りに力を入れていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度定期的にカンファレンスを行っている。また、職員から意見や提案があった際にはすぐに対応し、話し合いを重ね、職員一人一人の意見を尊重するよう努めている。	○	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	カンファレンスや日常業務の中で、入居者及び家族の状況や要望を確認し、それに対応が出来るようケア内容の確認や勤務調整を行い対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動の際には、入居者に説明を行っている。また、新規入職の場合には、入職前にボランティア等で入居者と接する時間を設け、入居者へのダメージを少なくするよう配慮している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は外部研修に順番に参加し、研修後には報告書を提出し、その内容に関して職員間での情報の共有及び意見交換を行っている。また、法人内でも月に1度勉強会が行われており、積極的に参加している。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設の行事に参加させていただき、また、入居者の紹介等も行っていたい。	○	ケアマネは、地区のケアマネ会議に参加していきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人内での行事(スポーツ大会、職員旅行等)で親睦を図ったり、職員との個別面談や食事会を行うことで、職員との意見交換が出来、ストレスの軽減を図れるよう努めている。	○	今後も継続し、職員のストレス軽減に努めていきたい。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日常の会話及び個別面談の中で、職員一人一人の意見を聞いている。また、スタッフの目標や意見を尊重し、個々の実力や能力に応じて役割・分担を振り分け、職員が目的意識をもって働けるよう取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の前に家族と本人来所していただき、実際にホーム内を見学したり、疑問や不安を聞き、事前に確認をしていただいている。また、聞いた内容を職員間で話し合い、十分なケア・対応が出来るよう、入居前に準備を行っている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	前項と同様に実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	来所頂いた際に、本人及び家族の現在の状況やバックグラウンドを聞き、それを把握した上で必要性に応じたケアを実施できるよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居までの期間、本人及び家族と出来る限りの話し合いを行い、不安や疑問を解消出来るように努め、また、ホームに馴染んで頂けるよう職員間でも話し合いを行うよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で、地域ならではの食事作りをしたり、方言を教えていただいたりと、入居者を中心とした日常生活及び行事計画を立てるよう努めている。	○	入居者の生活してきた背景等を知り、職員が学び、それらをケアに取り組んでいけるよう努めていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時等、入居者の日常生活や近況を報告したり、年間行事に家族を招待したりと、家族が、入居者と同じ生活空間の中で過ごせる時間を作っている。また、連絡を蜜に取り、ケアの方向性・要望等の意見交換を行っている。	○	家族会等を行い、入居者がホームで生活していくうえでの要望や、意見を言える場を作っていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時間の制限をなくし、また、他の利用者や職員に気を遣うことがないよう、居室でお茶を飲んでいただいたり、談話して頂けるよう配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域主催の行事や祭りに参加し、交流をしている。また、行事参加や近隣への散歩時などに、気軽にホームに立ち寄っていただけるよう声掛けを行っている。	○	近隣住民が気軽に立ち寄れる雰囲気作りや、入居者の個別のニーズに対応できるよう努めたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	適宜、座席換えを行ったりレクリエーションの内容を工夫することで、入居者同士の会話・交流の時間を増やし、孤立することのないよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も、気楽に来所して頂けるように、近況の確認を電話で行い、関係を断ち切らないようにしている。また、手紙の交換をしたり、本人と家族とが来所してくださったりと、関係の継続に努めている。	○	今後も、行事の際には退居された方にも出席していただけるよう連絡を取り合っていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中から個々の意見や要望を得て、本人の希望に沿ったケアを行えるよう努めている。	○	個々に希望や意向を言える場・雰囲気作りに取り組んでいきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	管理者が、入居前に本人・家族・関係先から十分に話を聞き、サマリーを作成している。また、入居後はケアの中で情報収集を行い、職員同士でそれらを把握し、共有している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の身体的・精神的状態を職員が観察し、その時の状況・状態に応じたケアが行えるよう、毎日の状況をケア記録・日誌・申し送りに残し、それらを職員が把握し、小さな変化も見逃さぬよう気をつけている。また、協力機関の医師に指示を仰ぎ、個々にあった生活を送っていただけるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者及び家族の意見や要望を聞く他、各利用者に担当職員を配置し、日々の生活の中で気付いたことなどを計画作成担当者に伝え、担当者はそれらを基に介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月・6ヶ月ごとに見直しを行っている。それ以前に生じた変化の際には、入居者及び家族に報告・相談し、新たな介護計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に日々の様子・気付き・変化を記入し、必要に応じて話し合いの場を持ちながら、職員間の情報の共有を行うと共に、ケア及び介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人クリニックの医師に、特変時は対応を確認している。通院時に家族介助が困難な場合は、職員による付き添いを実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアが、慰問を行いに来所している。また、保育園や中学校などの行事にも招待され、積極的に参加している。	○	今後も、ボランティアの方々にご協力頂けるよう、呼びかけていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	定期的に地域のケアマネージャー会議に参加し、情報交換を行っている。	○	今後も、情報交換の場として交流を深めていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状では、協働していない。	○	意向や必要性があれば検討したい
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、本人や家族の意向を尊重し、かかりつけ医のある入居者に対しては、適切な医療が適時受けられるよう状況の報告を行っている。また、協力医師が主治医の入居者に対しては、月に1度の往診を実施する他、入居者の体調に応じて主治医に連絡をとり、指示を仰ぐよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医師からは、生活上の支援方法等を詳しく助言頂いている。また、薬に極力頼らない支援との提示が医師からはあり、職員共通の認識として実践に努めている。	○	職員間での認識に差が出ないよう、認識の統一に努めていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を職員として配置し、入居者の健康状態を報告すると共に、看護師は、協力医師や介護職員との連携を蜜に行い、健康管理及びケアを行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中は、管理者や職員が病院を訪問し、状態確認や情報交換・状況把握に努め、早期退院に備えている。	○	入院中の情報収集を行うことで、退院後のケアに繋がってきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族や協力医師との話し合いを行う。また、終末期ケアの対象者が出た場合には、本人や家族の意向を尊重し、職員間で十分な話し合いを行ったうえで支援していきたい。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	協力医師と蜜に連絡をとり、「できること」と「できないこと」の見極めを職員間でも話し合い、ケア及び支援に繋がってきたい。	○	終末期に向けた支援体制を、家族・医師・職員が連携して行っていけるよう努めたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族及び関係者との事前の話し合いを行うようにしている。また、環境の変化に戸惑いがないよう、事前に自宅に外泊をして様子を見たり、転居先の施設へ家族が本人を連れて見学に行くこともある。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	○	ケアや対応についての勉強会等にも積極的に参加していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○	入居者の目線にたってケアを出来るようにしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	前項と同様。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定時のトイレ誘導のほか、排泄のサインを見逃さないようにしている。また、トイレだという認識をしていただくためにも、トイレ表示を明確にし、トイレでの排泄を行えるよう支援している。男子用トイレも設置している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日と時間は決まっているが、ゆったりと入浴できるよう、入浴時間は十分にとっている。また、日替わりで入浴を行っており、順番は毎日変更している。	○	入居者の希望する時間に入浴できるよう体制作りをしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の意見を尊重し、個々の生活リズムにそって睡眠及び休息をとっていただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の希望されるレク(散歩・ドライブ等)を取り入れたり、また、出来る範囲内で掃除や洗濯(干し・たたみ)を手伝っていただいている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から小額のお金を預かり、本人が希望する物を購入したり、外出先で使えるよう支援している。また、ホーム内で擬似売店を行い、金銭の使用を身近に置くよう努めている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があったりその日の気候によって、個々の体調をみた上で、ドライブや散歩、庭へ出るなどの支援を行っている。	○	職員都合で支援できないこともあるため、
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者の希望を取り入れ、外食や地域の行事などに参加している。また、家族と外出する入居者もあり、職員はそれらを支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をすることはほとんどないが、本人の希望に応じて、手紙の代筆をおこなったり、手紙が来た場合には読んで、入居者と共に喜びを共有するよう努めている。	○	本人が希望した場合、自由に連絡がとれるような体制作りをしていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の制限を設けておらず、気軽に自由に面会を行っていただけるよう努めている。また、面会者との記念写真を撮り、より良い関係が築いていけるような工夫も行っている。	○	開放的な雰囲気作りを心がけていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実施している。身体的状況から、やむを得ず臥床時にベッドサークルをつける入居者に関しては、家族に十分な説明を行い、納得・理解を頂いた上で実施している。	○	身体的拘束だけでなく、言葉の拘束もしないよう、職員間での意識統一を行っている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室・玄関・フロアうち玄関全てにおいて鍵をかけていない。閉鎖的な場ではなく、自由に花壇や畑、ウッドデッキに出られるよう、開放的な空間作りに努めている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室・トイレ等、入居者のプライベートな空間に立ち入る場合には、必ずノック・声掛けを行い、本人のプライバシーに配慮しながら、入居者の行動を把握するよう努めている。また、夜間は定時巡視のほか、随時見守りを行い対応している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状態に合わせ、居室に置くかホーム側で預かるかを見極め、極端に入居者の生活から排除することはしていない。また、危険と判断したものに関しては所定の場所に置き、職員が管理をし、必要な際には職員と一緒に使用している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者ごとにケア会議を行い、職員全員が入居者の状態を把握し、危険や事故のないよう努めている。カンファレンス等でも事故の予測やリスクについても話し合いを行い、事故防止に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	講習に参加した職員が全職員に実践し、初期対応の訓練を行っている。また、急変時のシミュレーションを行うこともある。	○	不定期で行っているため、定期的な勉強会を行っていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消化・避難訓練を行っている。昼夜の両方を想定した訓練を行っている。	○	近隣の方の協力が得られるよう、体制作りをしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	現在の入居者の状況は逐一連絡・報告し、その際に起こりえるリスクについて説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックをおこない、体調の変化を見逃さないよう努めている。また、異変に気付いた際には職員が速やかに協力医や家族に連絡し、迅速な対応に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をカルテに閉じ、用法・用量・作用を職員が把握できるよう努めている。また、内服確認とチェックを必ず行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェックを記録に残し、職員全員が排泄状況を確認できるよう努めている。また、利用者の状態を考慮しながら、薬に頼るばかりではなく、体操や散歩を行い、食事内容にも工夫を凝らしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアをおこなっている。また、週に1度義歯洗浄を行い、清潔の保持に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量をチェックし把握した上で、バランスの良い食事を、入居者の状態に合わせた形態や量にして提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	独自のマニュアルを作成し、職員間での統一に努めている。	○	勉強会などに参加し、研修に参加した職員が情報を他の職員に伝え、情報の共有をしている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は高温殺菌を行い、食中毒予防のため、食品は鮮度が損なわれないよう管理し使用している。また、食品管理場所(冷蔵庫・食糧庫)も掃除の徹底を行い、清潔に努めている。食品は、地元直売所や近隣スーパーから新鮮なものを配達していただいている。		
s (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に花や観葉植物を置き、明るく開放的な雰囲気作りを心がけている。また、玄関前にベンチを置き、入居者が外気浴をしに外に出て腰をおろしたり、外の花を見て楽しんだり出来るような工夫も取り入れている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて写真の張り替えや貼り絵の交換を行っている。また、居間からは外の景色が良く見えるようになっており、周囲の山々や公園が眺められ、見晴らしが良い。居間からは台所が見えるため、調理の音やにおいを直に感じられる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時、席の配置換えを行ったり、ソファを設置し、自由に利用できるように工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が入居前に使用していた家具や、愛着のあるものを自由に持ち込み、本人が居心地がよく、生活しやすい環境作りを支援できるよう、工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日の換気や室温の調整を行い、入居者の心身状態や希望に応じて行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや段差解消など、入居者の身体機能を活かし、安全に生活が送れるよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員は、入居者個々の能力・機能を把握、見極めし、ADLを低下させず、自立した生活を送れるよう支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇を作ったり、畑で野菜を作り入居者と共に収穫を行ったり、入居者が屋外で楽しめるような工夫を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・ 恵まれた環境を活かして無農薬野菜を作っており、利用者と収穫を楽しんだり収穫した野菜を使って手作りの食事を提供している。 ・ 入浴を1日置きに実施している。

・ 入浴を1日おきに実施しているが、本人の希望があれば、毎日でも対応できるように行っている。